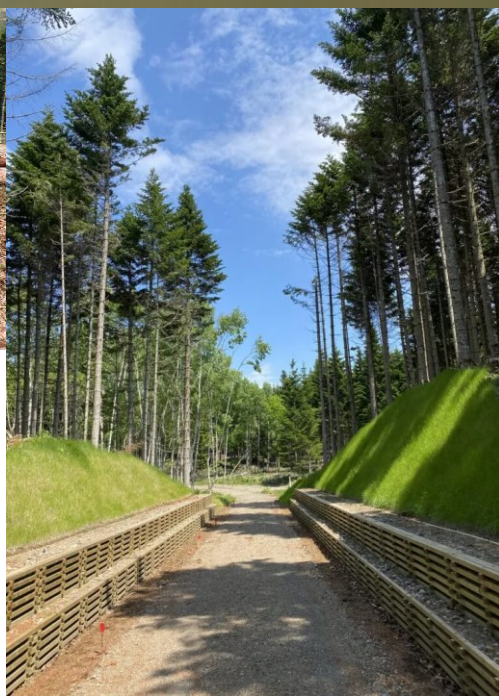
北海道の森林・林業 2024



木とふれあい、
木に学び、
木と生きる。

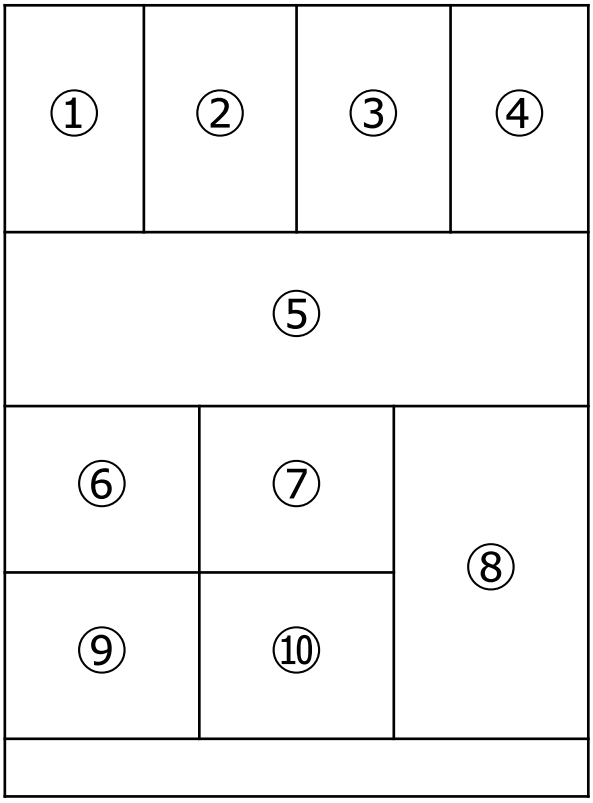
北海道の木育
Hokkaido mokuiku

HOKKAIDO
WOOD
北海道産木材

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

北海道局　農林水産課

【表紙写真解説】



① アカエゾマツ（紋別市）
② カラマツ（中津別町）
③ トドマツ（黒松内町）
④ 道南スギ（知内市）
⑤神居古潭の紅葉（旭川市・深川市）
（写真：林野庁Webｻｲﾄ 日本美しの森 お薦め国有林「嵐山・神居自然休養林」より）
⑥暮らしを守る治山事業（鹿部町）
（令和6年度　北海道民有林治山・林道写真コンクール（治山部門）金賞
⑦ 北の森づくり専門学院の実習風景（旭川市）
⑧木製枠で法面強化！（別海町）
（令和５年度　北海道民有林治山・林道写真コンクール（林道部門）金賞）
⑨ 木育ひろばinチ・カ・ホ（札幌市）
⑩ 「HOKKAIDO WOOD」、「北海道の木育」のロゴマーク

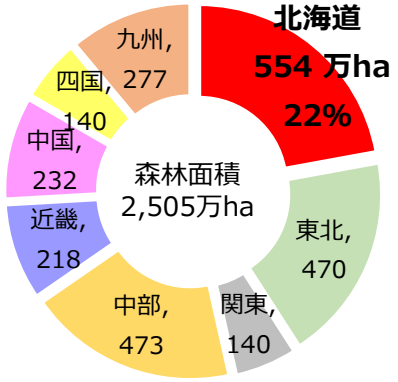
目次

◆北海道の豊かな森林・・・・・・・・・・・・・・・1
◆「新しい林業」に向けた取組の展開・・・・・・2
◆森林資源の循環利用の推進・・・・・・・・・・3
◆森林の機能を維持・増進する「森林整備事業」
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
◆命と暮らしを守る「治山事業」・・・・・・・・6
◆道産材の需要拡大・利用促進・・・・・・・・・7
◆森林や木とのふれあいの推進・・・・・・・・・8
参考情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

北海道の豊かな森林

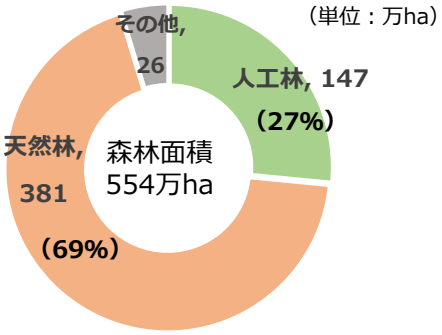
- 北海道の森林面積は554万haで、全国の約22%を占めており、豊かな森林資源を有しています。
- 全国と比べて天然林の割合が高く、人工林の主要樹種が**「トドマツ」「カラマツ」**（本州以南はスギ・ヒノキ）であるなど、特徴的な森林景観となっています。
- 戦後造成されたトドマツ・カラマツの人工林が成長し、本格的に利用可能な時期を迎えています。
- 所管別では、森林面積の55%を国有林が占めるなど、公的な森林が約7割を占めています。

日本の地域別の森林面積



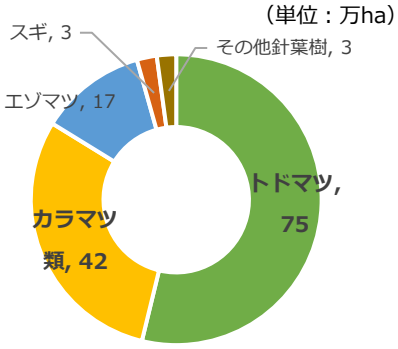
資料：林野庁「森林・林業統計要覧2024」

北海道の森林面積（林種別）



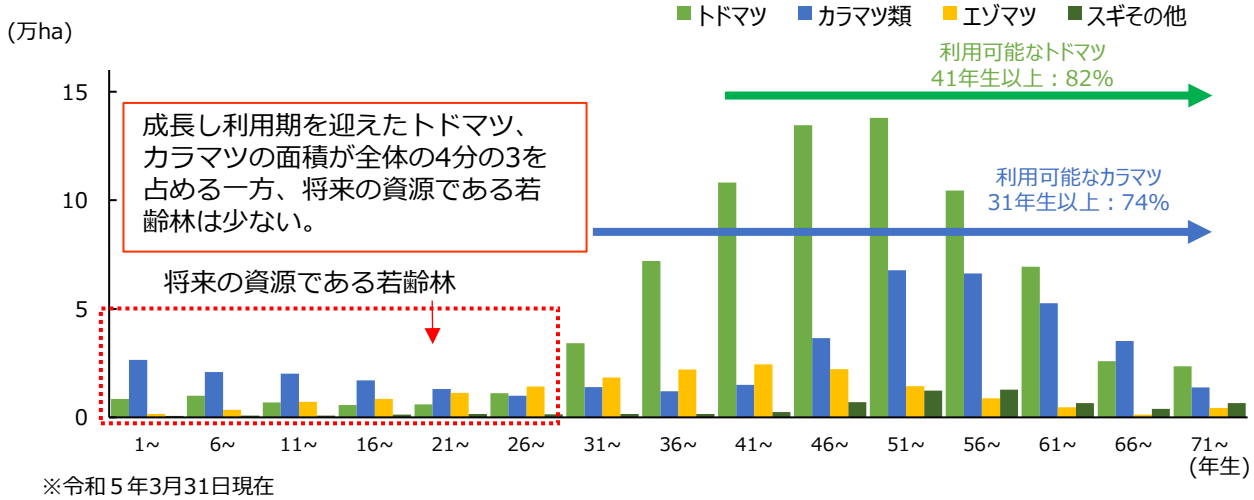
資料：北海道水産林務部「令和５年度北海道林業統計」をもとに作成

針葉樹人工林の樹種別森林面積



資料：北海道水産林務部「令和５年度北海道林業統計」をもとに作成

針葉樹人工林の齢級別面積



※令和５年3月31日現在
資料：北海道水産林務部「令和5年度北海道林業統計」をもとに作成

主要樹種の特徴

● トドマツ

- 常緑針葉樹。
- 木材は、加工のしやすさや特徴的な白色が好まれ、北海道では古くから建築材をはじめ、様々な用途で利用されてきたが、柔らかく強度や耐久性などに課題あり。
- 枝葉は精油の原料として活用可能。

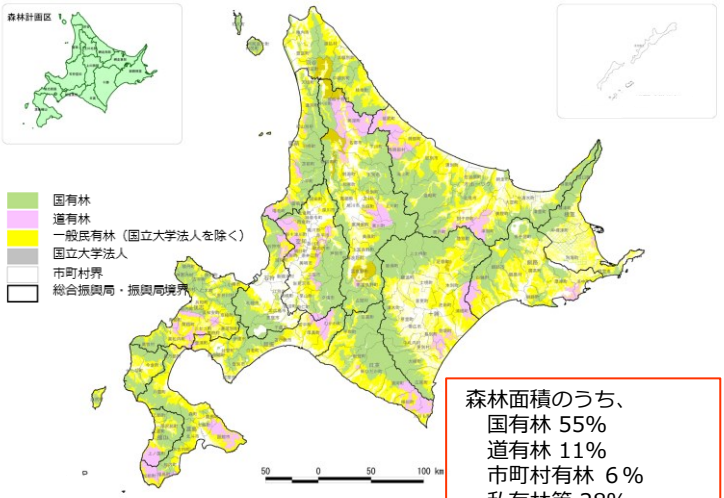
トドマツ立木の樹皮（左）と白色が特徴的なトドマツ材（右）

● カラマツ

- 紅葉が美しい落葉針葉樹。
- 木材は、非常に堅い一方、ねじれ等が出やすいため、梱包材等での利用が中心だったが、近年の乾燥技術の確立等により、建築材としての利用が拡大。

カラマツ立木の樹皮（左）とカラマツ材（右）

所管別森林分布図



森林面積のうち、
国有林 55%
道有林 11%
市町村有林 6%
私有林等 28%
となっており公的な森林が約7割を占めている。

資料：北海道水産林務部「所管別森林分布図」を加工して作成

「新しい林業」に向けた取組の展開

■ スマート林業などのイノベーションの推進

低い生産性や高い労働災害率など林業特有の課題を克服し、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を実現するため、ICT等の先端技術を活用し、林業の低コスト化、効率化・省力化、生産性・安全性の向上等を図る「**スマート林業**」を推進しています。

〈事例〉UAVを活用した森林資源等の把握

✓ 森林情報のデジタル化を推進するため、道有林をフィールドにUAV（無人航空機）による空撮とAIによる画像解析を実施。

✓ 森林資源や森林境界の把握、路網開設の省力化に取り組んでいます。

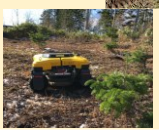
森林資源調査用UAV
写真提供：HELICAM（株）

〈事例〉苗木生産・造林作業の機械化

✓ （有）大坂林業は、幼苗の選別を機械導入により自動化。

✓ 植林や下刈などの造林作業は、作業負荷や費用負担が大きく、機械化などによる低コスト化・軽労化に取組んでいます。

乗車式多目的造林機械→

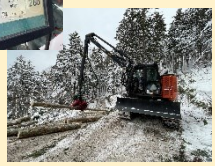


←リモコン式下草刈機械

〈事例〉ICTを活用した木材生産等の効率化

✓ ICTハーベスタ等の導入により、生産計画から伐採、出材までの情報をICTで管理。

✓ 需要に合わせた採材など、生産性の高い木材生産・流通体制構築に取り組んでいます。



↑木材データから最適なプランを提示し採材するICTハーベスタ

北海道がスマート林業によりめざす姿

安全で働きやすく、効率的な森林施業と需要に応じた木材の安定供給が展開されるよう、森林資源の把握から伐採、製品加工、流通までの情報をつなぐシステムを構築

➡北海道の地形条件等に適したスマート林業を確立

イノベーションによる林業の将来像（参考）

出典：林野庁「林業イノベーション現場実装推進プログラム」（令和4年7月アップデート版）をもとに北海道局作成

✓ 資源情報等の高度化・デジタル化

✓ 自動化機械による省力化・軽労化

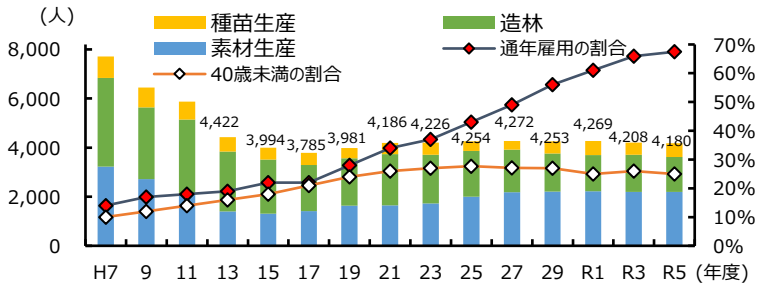
✓ 機械化等による造林作業の負担軽減

✓ 植栽から伐採までの期間を短縮

■ 人材の育成・確保

- 林業従事者数は全国で緩やかな減少が続く一方、北海道では平成17年度を底に少しずつ増加し、近年は概ね横ばいで推移しています。
- 事業別では、素材生産は増加傾向にあるものの、造林を担う従事者が減少傾向となっており、造林作業の軽労化などが課題となっています。

■北海道における林業従事者数の推移



資料：北海道水産林務部「林業労働実態調査報告書」

＜事例＞「北の森づくり専門学院」（旭川市）

✓ 令和２年４月、将来の森林づくりの中核を担う人材を育成する「**北海道立北の森づくり専門学院（北森カレッジ）**」が開校。

✓ 産学官が連携した運営体制で、道内全域をフィールドとした実践的な実習やインターンシップの実施などを通じて、オール北海道で人材育成を支える体制となっています。

道産材をふんだんに使用した校舎内装

常設されている高性能林業機械の操作シミュレーター

森林資源の循環利用の推進

- 森林は国土保全や地球温暖化防止などの様々な恩恵を国民にもたらしており、その機能が将来にわたって発揮されるためには、森林の適正な管理と森林資源の持続的な利用が重要です。
- 北海道では、「適切な森林管理体制の構築」や「主伐後の着実な再造林」、「木材の安定供給」などにより**森林資源の循環利用**を推進し、持続可能な森林経営に取り組んでいます。

■ 森林の有する多面的機能

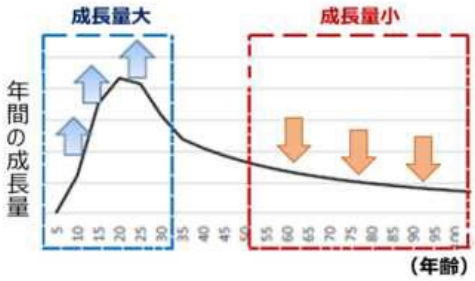
森林は様々な働きを通じて国民生活の安定向上と国民経済の健全な発展に寄与しており、これらの働きは「森林の有する多面的機能」と呼ばれています。これらの価値は、貨幣換算できるものだけでも**全国で年間70兆円以上、北海道で11兆円以上**※と評価されています。

※令和５年度北海道森林づくり白書より

■2050年カーボンニュートラル実現やSDGs目標の達成への貢献

- 2050年カーボンニュートラルの実現に向け、CO_2吸収源としての機能を最大限発揮するためには、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を進め、若い森林を確実に造成することが有効です。
- また、森林のもつ多面的機能の発揮を含め、森林・林業・木材産業は持続可能な開発目標(**SDGs**)の様々な目標達成にも寄与するため、森林分野の貢献が期待されています。

人工林の年齢別成長量のイメージ



出典：北海道「北海道森林吸収源対策推進計画」（令和4年3月）

出典：林野庁「森林・林業・木材産業の現状と課題」

＜事例＞木質バイオマスへの取組（津別町）

- ✓ 津別町は、総面積の約86%を国有林・道有林などの森林が占めています。
- ✓ 森林資源の活用に注力し、平成19年度に津別町バイオマス構想を策定、木質バイオマスの利用についての取組を進めています。
- ✓ 具体的には、平成21年度より順次、役場等の施設にペレットボイラーを導入、令和４年度に津別町木質バイオマスセンター稼働、また町独自の仕組みとして、どんな木材でも買い取り有効活用する「つべつウッドロスマルシェ」の取組を行っています。

【取組事例：つべつウッドロスマルシェ】

出典：津別町Webサイト「つべつウッドロスマルシェ」

■ 適切な森林管理体制の構築

北海道は全国と比べて森林経営計画※1の作成率や森林認証※2の取得率が高く、計画的な森林経営の取組が進んでいます。

※1　森林法に基づき森林所有者等が作成し、市町村長等が認定する５年間の経営計画。

※2　第三者機関が、森林経営の持続性や環境配慮等の基準を満たした森林を認証し、消費者の「認証材」の購入を促す仕組み。

■ 森林経営計画作成面積　（単位：ha）

	森林経営計画	民有林面積	カバー率
北海道	187万	247万	76%
全国	485万	1,737万	28%

資料：林野庁「令和５年度森林・林業白書)」、北海道水産林務部「令和4年度北海道林業統計」をもとに作成※令和5年3月末現在

■ 森林認証面積　（単位：ha）

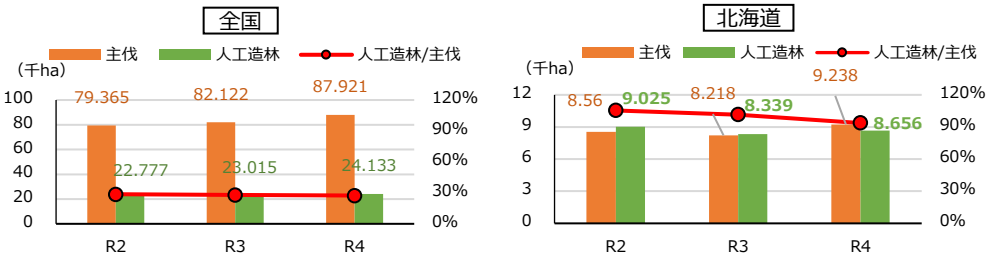
	認証面積	森林面積	カバー率
北海道	153万	554万	28%
全国	259万	2,494万	10%

資料：林野庁「令和5年度森林・林業白書)」(令和5年12月現在)、北海道Webｻｲﾄ「北海道内の森林認証取得状況」(令和6年3月末時点)をもとに作成

■主伐後の着実な再造林

北海道は全国と比べて主伐面積に対する人口造林面積の割合が高く、森林資源の循環利用、ひいては持続可能な森林の経営の取組が進んでいます。

■ 民有林の主伐面積・人工造林面積



資料：林野庁「森林・林業統計要覧2024」、北海道水産林務部「令和４年度北海道林業統計」をもとに作成

■木材の供給

- 北海道の素材（丸太）生産量は、都道府県別では全国１位、地域別では全国３位で、全国の約14%を占めています。
- 樹種別では、カラマツが6割以上、トドマツのほぼ全量、広葉樹の約３割を全国に供給しています。

■ 主要地域の素材生産量（令和５年）　（単位：万m³）

全国	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
2,064	301	483	148	188	117	163	149	517

内訳の計が合計と一致しないのは、単位未満の値を四捨五入しているためである。

資料：農林水産省「令和５年木材統計」

■ 主要樹種の素材生産量（令和５年）　（単位：万m³）

	スギ		ヒノキ		カラマツ		トドマツ等		広葉樹	
1位	宮崎	185	熊本	28	北海道	120	北海道	124	北海道	45
2位	大分	89	愛媛	25	長野	23			岩手	21
3位	秋田	87	高知	25	岩手	22			福島	10
全国		1,192		318		184		124		172

資料：農林水産省「令和５年木材統計」

＜事例＞ 道産材を全国に供給、広葉樹資源の有効活用への取組（津別町）

- ✓ 丸玉木材株式会社（津別町）は、原料に100%道産のカラマツ・トドマツなどを用いて合板を生産する国産材針葉樹合板のパイオニアです。
- ✓ 近年では、荒れ地にも育ち天然更新が可能な一方で有効活用が難しかったシラカバ等の広葉樹を使用した合板の製品開発を進めており、原料の多様化や未利用資源の活用等に取り組んでいます。
- ✓ 令和５年９月にはシラカバラインが完成し、シラカバ合板などの生産を開始しています。
- ✓ また、端材を燃料とした木質バイオマスエネルギーで工場内の熱・電力のほぼ100%をまかなっているなど、CO2削減の取組を進めています。

丸玉木材(株)津別工場･津別単板協同組合

道産針葉樹合板

■ 森林環境譲与税等を活用した取組

- 令和元年度から、森林の公益的機能の維持増進の重要性に鑑み、市町村及び都道府県が実施する森林の整備及びその促進に関する費用に充てるため、「**森林環境譲与税**」の譲与が開始されました。
- **森林経営管理制度**※に基づき各市町村が実施する間伐等の森林整備や路網整備、人材育成、木材利用などの取組が進められています。

※ 経営管理が行われていない森林について、市町村が仲介役となり、森林所有者と担い手をつなぐ仕組み（経営に適さない森林は市町村が自ら管理）。

【稚内市の取組事例】
間伐材の市内工場への運搬費に対し補助することで、私有林の整 備の促進及び市内工場の利用増に繋がった。
出典：北海道「令和5年度森林環境譲与税市町村取組事例集」より北海道局作成

森林の機能を維持・増進する「森林整備事業」

- 森林の多面的機能発揮のためには、間伐や主伐後の再造林といった森林整備により健全な森林を育てることが必要です。このため、国や北海道では、間伐等の森林施業や路網整備に対して、森林整備事業により支援を行っています。
- また、人工林が主伐期を迎える中、林業の生産性の向上やコストの低減等を図るとともに、優良種苗の普及等に取り組んでいます。

森林整備事業で支援する主な施業

【植付け：地拵え（整地）、苗木の植付け】【下刈り：雑草木の除去】【除伐：侵入した不用木の除去】【間伐：立木密度調整のための抜き伐り】【路網整備：林道の開設】 など

植付け

下刈り

間伐により光が届くようになった林内

■ 路網整備や高性能林業機械の活用等による森林施業の生産性向上

- 路網の整備と高性能林業機械の導入を組み合わせた作業システムや、列状間伐の普及・定着、造林分野の機械化等に取り組み、林業の低コスト化を推進しています。
- 高性能林業機械は従来のチェーンソー等に比べて作業の効率や生産性・安全性等の性能が著しく高い林業機械です。路網を適切に整備することで、高性能林業機械や大型車両などの導入を促進し、施業全体を効率化することができます。

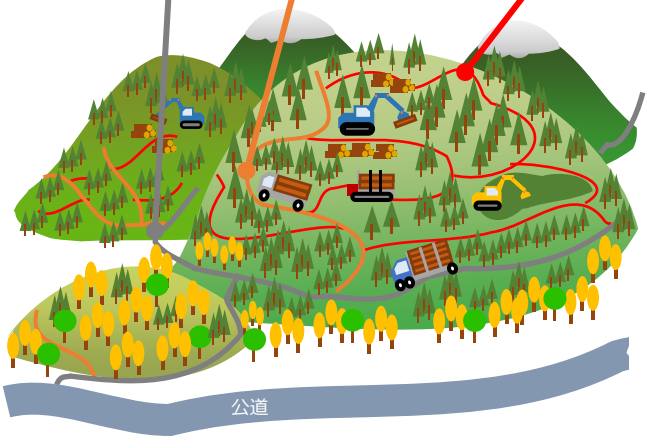
林道：一般車両の走行も想定した幹線となる道

林業専用道：10t積程度のトラック等の林業用車両の走行を想定した道

森林作業道：林業機械の走行を想定した森林施業用の道

機械導入や最大限の性能発揮が可能に

一台で伐倒・枝払い・集積等が可能な**ハーベスタ**（左）、さらに運搬も可能で駆動車輪による地形適正と高速走行を確保した**ハイランダー**（中・右）



資料：林野庁「森林整備事業のあらまし」をもとに作成

■ ナラ枯れ被害対策

ナラ枯れ被害木

木くずや糞の混合物（フラス）の様子

・ナラ枯れとは、カシノナガキクイムシが持ち運ぶ病原菌によりナラ類が枯死する伝染病です。

・令和５年度に道南地方で被害が初めて確認され、令和６年度も被害が確認されています。

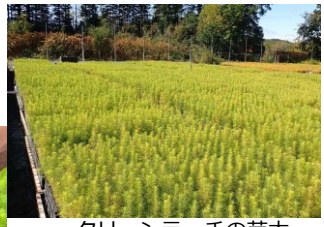
伐倒くん蒸

・生息調査、上空調査、現地調査により被害木の調査を行い、被害木について、伐倒後の焼却やくん蒸、立木のまま薬剤注入をするなどをして処理しています。

■ 優良種苗やコンテナ苗の活用

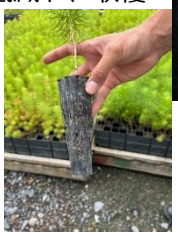
【優良種苗「クリーンラーチ」】

グイマツとカラマツの精英樹の交配種で、成長が早い、通直で強度に優れる、CO_2吸収・固定能力が高い、風雪害に強いなどの特徴があり、下刈り回数の低減など造林コストの低減や、収穫期間の短縮等が期待できます。


クリーンラーチの苗木

【コンテナ苗】

コンテナ容器で育成した根鉢付きの苗木で、植付が容易、植付後の活着・初期成長がよい、植付適期が長いなどの特徴があります。植付適期の拡大により、伐採と並行(又は連続)して地拵えや植付を行う、伐採と造林の一貫作業の導入等が可能となります。


コンテナ苗

命と暮らしを守る「治山事業」

- 北海道の山地は、火山性噴出物に厚く覆われている箇所も多いことから、崩壊や浸食を受けやすく、山地災害が発生しやすい特徴があります。
- 近年、大規模な地震や台風の発生に伴い山地災害が増加しており、今後もさらなる災害の頻発が懸念され、山地防災力の強化がいっそう重要になっています。
- 安全で安心できる国土づくり等を推進するため、森林の機能確保が特に重要な保安林等において、山地災害の復旧・予防等を図る**治山事業**を実施しています。

■ 山地災害の防止

- 豪雨の頻発等に伴い山地災害が増加する中、集落や道路等を守るため、山腹工などの治山施設の設置等の治山対策を実施し、山地防災力を高めています。
- 平成28年の台風災害では、河川の増水による渓岸浸食で発生した流木が下流の漁港等に被害をもたらしました。流木被害の大きかった十勝地域をモデルに検討した対策を現在全道に展開しており、流木捕捉機能を持った治山ダムの設置や流木化するおそれの高い樹木の伐採等の総合的な対策を進めています。

■ 山地災害発生状況（被害額）

※10か年間平均値の比較

資料：北海道水産林務部治山課作成

H29（崩壊直後）　R1（施工直後）　R4（植生回復）

山腹崩壊した斜面に山腹工を施し、その後、植生が回復してきている様子↑（神恵内村）

荒廃した渓流　設置直後の治山ダム　流木を捕捉した治山ダム

流木捕捉機能を持った治山ダムの効果（イメージ）↑
（左：荒廃し流木が発生した渓流（釧路市）、中：そのような場所に設置された流木捕捉式治山ダム（音威子府村）、右：治山ダムが流木を捕捉している様子（音威子府村））

■ 防災林等の整備

- 防災林は飛砂や風害等を防ぐ機能に加え、一定の津波被害軽減効果も期待できるため、海に囲まれた北海道において重要です。
- 北海道では、平成29年に「北海道海岸防災林整備基本方針」を策定し、津波減災機能の向上に資する整備手法で計画的に進めています。

飛砂や風害等の防止に加え、津波被害軽減効果も期待される海岸防災林（釧路市）

■ 大規模山地災害からの復旧

北海道では、大規模な台風災害や地震が相次ぎ、それらに伴い山腹や林道の崩壊、風倒木等の林野関係被害が多く発生しました。現在、それら被害からの早期復旧は多く完了しており、再度災害防止に取り組んでいます。

平成28年 台風災害等からの復旧

- ✓ 平成28年夏、観測史上初めて１週間で３回台風が上陸するなど台風災害が相次ぎ、全道で甚大な被害が発生、森林でも林地荒廃や林道の損壊、風倒木等が多く発生しました。
- ✓ 現在では多くの復旧作業が完了し、引き続き、再度災害防止の取組が続いています。

大規模山腹崩壊からの復旧（羅臼町）

平成30年 北海道胆振東部地震からの早期復旧

- ✓ 平成30年９月、最大震度７の地震が発生、土砂災害や家屋の倒壊、明治以降最大規模の林地崩壊等の甚大な被害を及ぼしました。
- ✓ 北海道では、胆振東部森林再生・林業復興連絡会議を設置し、平成31年に「北海道胆振東部地震による被災森林の再生に向けた対応方針」、令和３年3月に「胆振東部地震被災森林復旧指針」を策定。緊急性の高い崩壊地及び幹線林道の災害復旧が令和３年度中に完了し、現在は、令和４年３月に策定した「胆振東部地震森林再生実施計画」等に基づき、引き続き計画的な森林造成に取り組んでいます。

被災直後

大規模山腹崩壊からの復旧（厚真町）

道産材の需要拡大・利用促進

- 地域の木材が様々な分野で利用されることで、森林資源の循環利用や脱炭素、林業・木材産業を含めた地域産業の振興、山村地域の活性化につながります。
- 北海道では、木材の高付加価値化や非住宅建築物などの木造化・木質化等を推進し、木材の需要拡大・利用促進に取り組んでいます。

■ 道産材の高付加価値化

トドマツ、カラマツ等の欠点を克服し付加価値を高めるなど、新たな建築部材等の開発・普及を推進しています。

＜事例＞乾燥技術による品質向上・用途拡大

「**コアドライ**※」は、内部（コア）まで十分乾燥し、カラマツの弱点である乾燥による「割れ」や「ねじれ」を克服した乾燥技術です。

高品質な建築用材として利用することを可能にしました。

※北海道木材産業協同組合連合会 登録商標

＜事例＞道産CLT（直交集成板）の利用拡大

- ✓ **CLT**（Cross Laminated Timber）は、ひき板を繊維方向が直交するよう重ねて接着した大判のパネルで、軽量で強度やデザイン性に優れ、中高層の木造建築も可能です。
- ✓ 平成29年から(協)オホーツクウッドピアで道産CLTの生産が始まり、建築物等での利用が進められています。

写真提供：協同組合　オホーツクウッドピア

■「HOKKAIDO WOOD」のブランド力強化

- 道産木材の需要拡大が図られるよう、北海道生まれの木材製品のブランド「**HOKKAIDO WOOD**」を立ち上げ、webサイト、SNS、ロゴマーク等を活用したブランド力の強化に取り組んでいます。
- 取組に賛同いただいた事業者等のメンバー数については、令和７年２月20日時点で412となっています。

木の質は、森の質。

ロゴマーク →

HOKKAIDO WOOD

■ 建築物等における道産材利用の促進

民間建築物を含めた非住宅・中高層建築物等の木造化・木質化を推進しています。

枝幸町認定こども園（枝幸町）

THE LODGE（北広島市）
©H.N.F.

VILLA BRAMARE（北広島市）
©藤井ビル

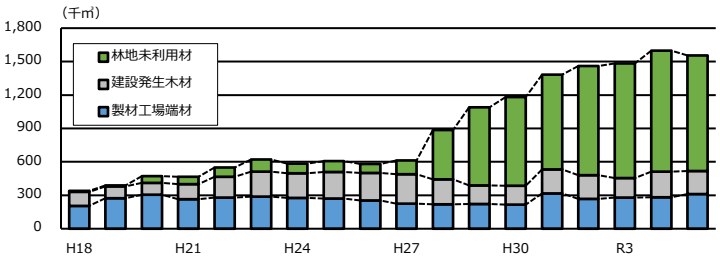
津別町役場庁舎1階（津別町）

↑道産木材を使用した「HOKKAIDO WOOD BUILDING」登録施設

■ 未利用材の利用促進

林地残材や枝葉等の未利用材の利活用に取り組んでおり、平成28年以降、大規模な木質バイオマス発電施設による利用が拡大しています。

■ 木質バイオマスのエネルギー利用量の推移



資料：北海道水産林務部「木質バイオマスエネルギーの利用状況」

＜事例＞「HOKKAIDO WOOD BUILDING」登録制度

- ✓ 北海道水産林務部では、道産木材を利用した建築物を「HOKKAIDO WOOD BUILDING」として登録する制度を創設。
- ✓ 登録者にはロゴマークの付いた木製の登録証を交付するなど、連携して道産木材をPRすることとしています。
- ✓ 令和３年10月から登録を開始し、令和７年３月末時点で85施設が登録されています。

登録募集チラシ（令和7年３月）

森林や木とのふれあいの推進

- 人口減少が進む中で森林を適切に管理していくためには、山村地域の活性化に加え、人々の森林や木への関心を高めていくことが必要です。
- 北海道では、「**木育**」の推進や森林・林業について体験・学習する機会の提供、山村や森林の伝統文化の伝承・発信等に取り組んでいます。

■「木育」等のふれあいの取組

- 「木育」は、 平成16年度に北海道で生まれた、子どもをはじめとするすべての人が、木との触れ合いを通じて木の良さや利用の意義などを学ぶ取組です。
- 各種イベントや環境教育プログラムの提供、「木育マイスター※」の育成等を推進しています。

※ 木育マイスターは、北海道が認定する木育を普及させる専門家で、令和7年１月現在、認定者数は全道で413名となっています。

（札幌市）

（札幌市）

（苫小牧市）

木育フェスタ2024の様子

出典：北海道HPから北海道局作成

＜事例＞道民の自発的な森林づくり活動

北海道漁業協同組合女性部連絡協議会では、豊かな森が海の魚を育むという考え方をもとに、昭和63年から「**お魚殖やす植樹運動**」に取り組み、これまで全道各地で125万本を超える苗木を植えています。

お魚殖やす植樹運動（当別町）

＜事例＞森林サービス産業の取組（黒松内町）

- ✓ 森林空間を健康、観光、教育等の多様な分野で活用する「森林サービス産業」。
- ✓ 黒松内町では、健康づくり・医療・福祉・観光などの様々な分野が連携し、町の特徴を活かした様々な**森林療法**の取組を行っています。

出典：（公社）国土緑化推進機構HPから北海道局作成

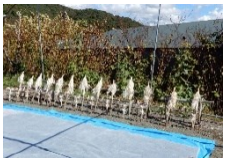
■ アイヌ文化伝承の取組

- 令和２年７月、アイヌ文化の復興・創造等の拠点として、**「民族共生象徴空間（ウポポイ※）」**がオープン。
- 森林分野でもアイヌ文化伝承に取り組んでおり、国有林（北海道森林管理局）では、アイヌ文化を象徴する森林の育成やアイヌ文化にかかわる林産物の提供等の取組を行っています。

※ウポポイとは、アイヌ語で「（おおぜいで）歌うこと」という意味

国有林内で採取された
ヤナギ枝を使用したイナウ →

← 共用林野内での
ヤナギの枝の採取

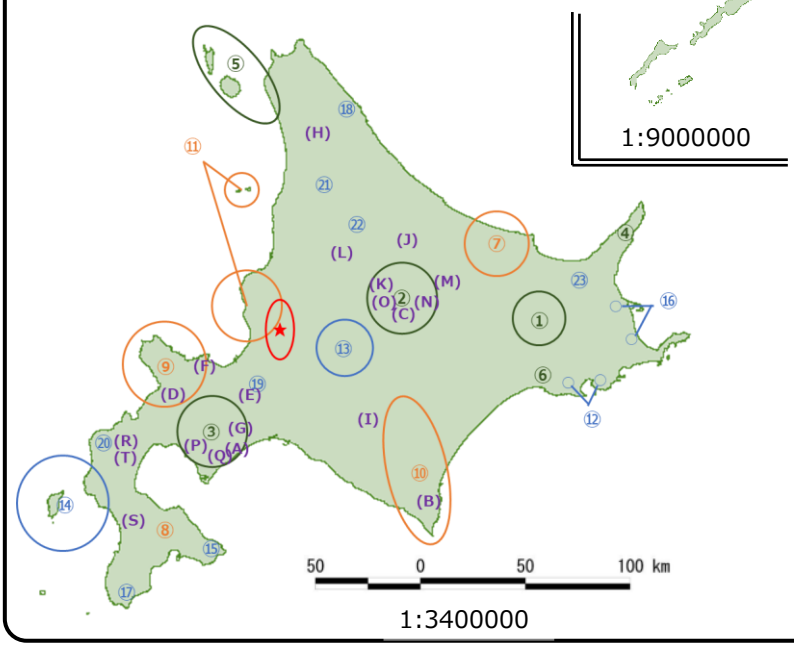


写真提供：公益社団法人北海道アイヌ協会三石アイヌ協会

令和２年７月に新ひだか町と日高南部森林管理署において、新ひだか町の国有林約1,600haを共用林野に設定し、アイヌ儀式の祭具（イナウ）として必要なヤナギの枝を年間600本採取できる契約を締結しました。

出典：北海道森林管理局Webサイト「各地からの便り（R５.10.12）」をもとに北海道局作成

森林とのふれあいの場



● 北海道の自然公園

【国立公園】
① 阿寒摩周国立公園
② 大雪山国立公園
③ 支笏洞爺国立公園
④ 知床国立公園
⑤ 利尻礼文サロベツ国立公園
⑥ 釧路湿原国立公園

【国定公園】
⑦ 網走国定公園
⑧ 大沼国定公園
⑨ ニセコ積丹国定公園
⑩ 日高山脈襟裳国定公園
⑪ 暑寒別天売焼尻国定公園

【道立自然公園】
⑫ 厚岸道立自然公園
⑬ 富良野芦別道立自然公園
⑭ 檜山道立自然公園
⑮ 恵山道立自然公園
⑯ 野付風蓮道立自然公園
⑰ 松前矢越道立自然公園
⑱ 北オホーツク道立自然公園
⑲ 道立自然公園野幌森林公園
⑳ 狩場茂津多道立自然公園
㉑ 朱鞠内道立自然公園
㉒ 天塩岳道立自然公園
㉓ 斜里岳道立自然公園

● 日本美しの森 お薦め国有林

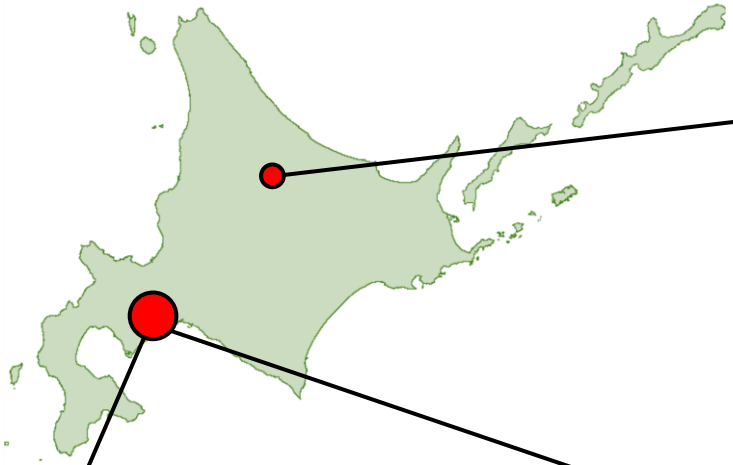
（A） ポロト自然休養林
（B） えりも風景林
（C） 然別自然休養林
（D） ニセコ・神仙沼自然休養林
（E） えにわ湖自然の森自然観察教育林
（F） 天狗山スポーツ林野外スポーツ地域
（G） インクラの滝風景林
（H） アベシナイ風景林
（I） 日高自然の森自然観察教育林
（J） 上川浮島風景林
（K） 白金自然休養林
（L） 嵐山・神居自然休養林
（M） 鹿の子沢風景林
（N） ぬかびら野外スポーツ地域
（O） トムラウシ自然休養林
（P） 洞爺湖風景林
（Q） 登別温泉風景林
（R） 狩場山自然休養林
（S） 縁桂風景林
（T） 美利河・二股自然休養林

★ 道民の森

資料：北海道水産林務部「所管別森林分布図」、林野庁Webｻｲﾄ「日本美しの森 お薦め国有林」をもとに作成

参考情報

- **北海道林業統計（年度別）**
  北海道の森林、林業・木材産業に関する統計です。
  （http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sum/kcs/rin-toukei/rin-toukei-index.htm）
- **北海道森林づくり白書**
  北海道における森林づくりの動向と道が行った施策を紹介するものです。
  （http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sum/kcs/r-g/r-hakusyo/top.htm）
- **北海道森林づくり施策概要**
  北海道庁が講じる森林づくり施策について紹介します。
  （http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sum/kcs/r-g/sesaku-gaiyo.htm）
- **胆振東部森林再生・林業復興連絡会議**
  北海道胆振東部地震による被災森林の再生に向けた対応方針や現在までの取組を掲載しています。
  （http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/hukkourenrakukaigi.htm）
- **国有林野事業統計（北海道森林管理局管内）**
  北海道の国有林の森林、林業・木材産業に関する統計です。
  （http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/statistics/kyoku/index.html）
- **北海道森林管理局の概要、レクリエーションの森**
  北海道の国有林（パンフレット）、北海道森林管理局の「重点取組事項」を掲載しています。
  （http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/introduction/gaiyou_kyoku/index.html）
  北海道森林管理局管内の「レクリエーションの森」について紹介しています。
  （https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/policy/system/rekumori/index.html）
- **日本美しの森 お薦め国有林**
  全国の「レクリエーションの森」から選定された特に「お薦め」の森を紹介しています。
  （https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/index.html）



上川浮島風景林（日本美しの森 お薦め国有林）

写真：林野庁Webｻｲﾄ 日本美しの森 お薦め国有林「上川浮島風景林」より

ポロト自然休養林（日本美しの森 お薦め国有林）

写真：林野庁Webｻｲﾄ 日本美しの森 お薦め国有林「ポロト自然休養林」より

民族共生象徴空間　ウポポイ

お問い合わせ先

国土交通省北海道局農林水産課
電話：03-5253-8111（内線 52712）